

『ソーラープレーン現状報告 3』

オリンポス工場内でのモーターラン試験も底々に、早速町田のサレジオ高専グラウンドにて走行試験を敢行しました。工場にて一応動作試験してから出よう、と回してみると、はたして電装系が…。この手の事はまあ想定内。Woody 横山が電装と勝負を付ける間、Tech 船岡、Tomato 石渡は学校で機体構造の小補修を続ける段取りに。折良く盛岡から研修に来ている刈部君は情報収集に勤しむ様子です。



まだ陽のある内に町田到着。久しぶりの全組状態での試験に、周囲も皆気合が入っている様子がビンビン伝わってきます。(俺もまだまだ若手には負けんぞ！エンジニア魂見せてやる…と意気込むものの、後悔が待っているのをホントは知っているのが年の功。)



2013年2月14日

しかし寒い！金物を組立てるのがイヤになる寒さです。グライダーの時より工数が増えたが、組立の手際はもうオリンポスのオッサンが出る幕ではなさそうです。サクサク組んだら機体をグラウンドの端に寄せ、モノは試しでプロペラを飛行ピッチで回してみる。どうやらモーターをリミットまで回せず、電圧がズルズル降下。離陸が厳しいのは確かだが、取り敢えず押してみると、機速が付けばプロペラが生き返るのが傍で見ているとよく分かります。プロペラ理論で肝になる”進行率”の概念なんて、一回試験飛行に付合えば簡単に納得できるモノです。



これで、巡航は可能な感触を得ましたが、離陸を何とかせねば…。飛行中操作できる可変ピッチ式にすれば解決しそうだが、多分定速制御のガバナ回路まで作らねばならないだろうし、今からは面倒だなあ、と思いついていたら、2日後「先生の虎の子バッテリー組みましたよ」とメール。なんと2日でバッテリーをセルから新たに組んだと言うのです。熱意に押され夕方、また町田へ急ぎます。

早速薄暗闇の中で回してみると…おお！一瞬でパワーの違いが分かります。動作中の電圧降下はほとんど無し。感触では離陸も楽にイケそうです。路面コンディション次第でしょうか。いずれにしてもこの”タイガーバッテリー”で走行試験は決定です。”ポニョバッテリー”はもう用無しです。



さて、資金スポンサーを継続して募集中です。有人ソーラーフライトに向けてご協力をお願い致します。スポンサーロゴマークを掲示するスペースは、大きく空いたままです。どうか空きが埋まる前に、ご協賛をご検討下さい。

四戸 哲

2013/2/14